

こどもの国公園の園路整備について

1. はじめに

沖縄市に位置する「こどもの国公園（総合公園、18.2ha）」においては、園内の高低差が最大37mと起伏の大きい地形となっており、バリアフリーに対応した園路等が未整備の状況である。

当公園は、県内唯一の動物園であることから、県内のみならず県外や国外の利用者も多く、その中にはベビーカーや車いす、お年寄りなど多くの方が利用している状況の中で、各施設へアクセスする園路の縦断勾配の緩和や幅員の確保など、かねてから園路の改善が課題であった。

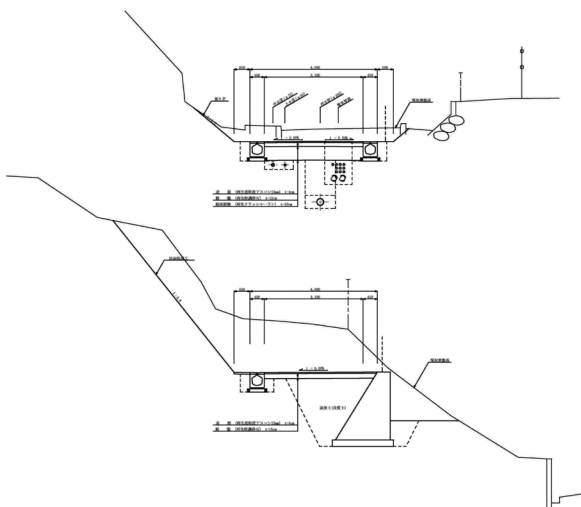
今回、紹介する事例は「社会資本整備総合交付金」を活用し、誰もが安心・安全かつ満足して公園を利用できるようバリアフリーに対応した園路整備を重点に事業に取り組んだ。

2. 計画・設計～工事まで

(1) 計画・設計

今回の整備範囲は、園内の琉球弧エリアからキリン展示場にかけての約400m区間の園路整備である。

計画・設計にあたっては、地形の高低差が最大5m、現況園路の縦断勾配も最大25%、既存の動物展示場等が密集しているなどの現場条件下で、バリアフリー法などに規定されている基準を満足し、かつ管理車両等の通行できる平面ルート及び縦断勾配など様々な比較検討を重ね、業務が行われた。



標準断面図

(2) 工事

工事期間中にあたっては、公園利用者への安全対策や仮設通路の設置、新設園路と既存園路の切替えなどを行い、工事を進めた。この工事には、公園利用の多い時間帯・イベント等による建設重機の搬入・搬出の制限や建設重機から発生する騒音等による動物の体調管理・習性など供用開始されている公園（動物園）特有の課題があったことから、指定管理者を含め、協議を行っている。この協議に時間を要したため、予定していた工事期間より遅れることになったが、無事に工事を完了することができた。



完成予想図

3. おわりに

工事完了までには、設計者や施工者のみに限らず、指定管理者など各専門分野の方と意見を交え、無事に園路を整備することができた。

その結果として、工事完了後には公園利用者からも園路勾配が緩和され歩きやすくなったとの喜びの声を多くいただいている。

また、平成27年2月から平成29年6月まで整備期間を要したが、工事期間中においては利用者数の大きな減少もなく、完了後は利用者数も増加している。

今後は当公園だけでなく、市内122公園も同様に誰もが安心・安全かつ満足度の高い公園づくりを行っていきたい。

(沖縄市 建設部 建築・公園課 山根 康稔)